

GP
就

業

力

GOOD PRACTICE

文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

時代 に向き合う。
ひと に向き合う。

持続型職業人SOZOプロジェクト

成果報告書

〈平成22～23年度〉



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 短期大学部 キャリアプランニング科



文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

持続型職業人SOZOPROJECT

成果報告書

c o n t e n t

事業概要について

ご挨拶

事業推進代表者 学長P1

事業推進責任者 情報ビジネス学部学部長P1

取り組み状況

メンタルタフネスの育成.....P2

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

実践的スキルのブラッシュアップ.....P3

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

ユビキタスキャンパスの始動.....P4

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開.....P5

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科



事業概要について

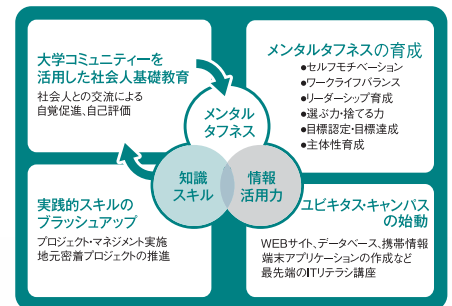
文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました「持続型職業人SOZOプロジェクト」の成果報告書をお届けします。

本学は、平成二十二年度以来、大学改革推進事業補助金（大学生の就業力育成支援事業）を柱に魅力ある大学づくりに取り組んでいます。この事業は、本学と短期大学部が共同で推進している、スキル面とメンタル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトであります。下記の解決策を通じて、社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきました。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつあります。しかしながら、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられました。

そのため、本取組では就業力育成のため、具体的施策を以下の4点を柱としてこれを推進することにしました。

- ① **メンタルタフネスの育成**:セルフモチベーション、ストレスコントロールなどグループでの実技演習と座学を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムの開発・展開しました。また、学部学生用としてビジネス研究講座を開講することによって学部学生の就業観の育成をおこなっています。
- ② **実践的スキルのブラッシュアップ** [プロジェクトマネジメント体験]:学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「SOZOプロジェクト」を推進しています。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシーを体得させる事業を展開しています。
- ③ **ユビキタス・キャンパスの始動**:「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶために、携帯情報端末を貸与し、専用アプリケーション開発支援や学内IT環境の整備などをおこなっています。
- ④ **大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開**:これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築するために、社会活動豊富な卒業生と在学学生の交流を推進しています。



本事業の概略図

次ページ以降に本取組の詳細についてご報告いたします。次年度以降も教職員一同、全力をあげて本事業を遂行していく所存ですので、本事業においてますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持続型職業人SOZOプロジェクト委員会

ご挨拶

事業推進代表者



学長 伊藤 晴康

実践的な学びの継続

豊橋創造大学は、藤ノ花学園の実践的教育の伝統を現代に活かし、創造性豊かで人間味あふれる次世代社会の担い手を育成すべく、平成8年に設立されました。今般実施された「『持続型職業人』SOZOプロジェクト」は、まさに学園建学の精神を体現した教育プログラムであります。社会に巣立つ一歩前の段階の学

生として、自らを鍛え、IT技術を活用しながら地域社会との緊密な連携の上に実社会での問題解決を教育に取り入れる取組は、多くの実績を残しました。地域の将来担う、たくましい若者の育成のため、本取り組みの成果を本学の教育に活かしてまいります。

事業推進責任者



情報ビジネス学部
学部長 佐藤 勝尚

就業力育成に寄せて

多くの人が職業選択を考える最初の段階は、10代の終わり頃からです。この時期の過ごし方は、将来の就業感に大きな影響を与えます。専門分野での教育がちょうどこの時期になるからです。この時期から、自分なりのビジョンを持つ必要性が圧倒的に高くなります。ビジョンは、21世紀の先の見にくい職業生活において、どちらの方向に進むべきかを決める手

助けとなり、また、目標に到達するには何が必要かの手助けとなります。将来を見据え、ビジョンを基にこの時期にしか成し得ない現実の行動をとる勇気を持たねばなりません。本学の就業力育成プログラムにより、学生は就業の場面での疑似体験や知的理解を得たことと思います。この成果を今後の学習活動に活かしていくことを期待します。

●メンタルタフネスの育成

ストレス対応法、セルフモチベーション、メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座、目標設定などの理論的背景と実技演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

メンタルタフネスグループでは、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムであるメンタルタフネス育成講座を開発・展開した。情報ビジネス学部では、2年生3月に「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」、3年生の9月に「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」、10月「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」、12月「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」の計4回の講座を実施した。

◆実施講座と概要

「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」

日時 平成23年3月23日 水 9:00～17:00 24日 木 9:30～12:00

場所 豊橋創造大学 A23教室

内容 自己のメンタルタフネス

- ・メンタルタフネスの基礎知識
- ・ストレスとは、自己のストレス状況の把握(ストレス度チェック、ストレッサー、)
- ・ストレス対応のための資源、リラクゼーション法等

「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」

日時 平成23年9月6日 火 9:30～16:40

場所 豊橋創造大学 A24教室

内容 セルフモチベーション

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」

日時 平成23年10月25日 火 9:30～16:30

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 仕事理解と企業研究

- ・企業研究の必要性と考え方
- ・ボードゲームを用いた企業研究(アパレル業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(タイプ別アドバイス法)

「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」

日時 平成23年12月17日 土 9:30～16:15

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 自己分析と就職活動

- ・就職活動と自己分析の関係を考えてみる
- ・ボードゲームを用いたビジネス研究(携帯電話業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(課題解決)

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから始めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動に至るまでの内容で実施したが、受講後に実施したアンケートの結果をまとめると、いずれの講座も5点満点中4ポイント前後であり、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。一方で、各講座内で実施したワークについては、自己紹介等の自己開示関連ワークの評価が5点満点中3.4ポイントと比較的低く、ボードゲーム等の相互作用関連ワークについては5点満点中4.3ポイントと評価が高い傾向が見られた。評価の低いグループワークについては、内容等を改善していく予定である。

メンタルタフネス育成講座は就職活動に向けた各種ガイダンスと関連した部分もあることから、今後は本学キャリアセンターと連携し、年間を通してスケジュール調整を行うことによって、就職活動に対する学生の関心と行動がスムーズにつながることを期待している。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学の取組として、2年次の直前に「メンタルタフネス育成講座」、秋学期前に「セルフモチベーション講座」を実施した。この講座を行うことにより、ストレスへの対処やモチベーションの自己調整を理解し、積極的に行動することの重要性を知ることとなった。

◆実施講座と概要

1.「メンタルタフネス育成講座」

日時 平成23年3月23日 水 9:00～17:00 24日 木 9:30～12:00

場所 豊橋創造大学 A24教室

内容 「自分のメンタルタフネスを活かせる「場」を見つける」と題して

- ① ストレスとは？
 - ② なぜ、メンタルタフネスが必要か？
 - ③ メンタルタフネスを自分のものにするにはどうしたら良いか？
- を内容として2日間の講座とした。

目標として

- ① 自分の学び方を理解することができる。
- ② ストレスに興味を持ち、自信を持ってこれからの環境変化に対応することができる。
- ③ あなた自身が日常生活において気軽に実行できるストレス対応法を身につけることを目指し、アンケートによって評価を行うこととした。

活動成果
および評価

受講後に実施したアンケートでは「講座に対する満足度」は5点満点中4.0ポイントであった。また、「講座内容は今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思うか」との問いに対しては5点満点中4.1ポイントの評価を得た。今回が初めての試みで過去の実績はないが、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスの意識が高まったと思われる。

2.「セルフモチベーション講座」

日時 平成23年9月6日 火 9:30～16:40

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 モチベーションの探求をとらえ

- ① モチベーションとは何か？
 - ② モチベーションに関する基本的な知識
 - ③ モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
 - ④ 自分自身のモチベーション「持論」の研究
- を内容として実施した。

目標として

- ① 自分自身のモチベーションを探求することによって、より自分に適した「環境」や「仕事」が選択できるようにする。
- ② “モチベーションに対する「持論」を持つことによって、自分自身のモチベーションを「自己調整」できるようにする”とし、アンケートにより評価を行うとした。

活動成果
および評価

受講後に実施したアンケートでは「参加者の講座に対する満足度」は5点満点中3.7ポイントで、前回と比べると0.3ポイントの減少となった。また、「講座を通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味が高まったか」との問いは、5点満点中3.6ポイント、「モチベーションの「持論」を通して、自分への理解が以前より深まったか」との問いは、5点満点中3.8ポイントであった。

一方、前回と同様の「講座内容は今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思うか」との問いでは5点満点中4.0ポイントであったことから、多くの学生が、「モチベーションへの興味・理解」について、就職活動や日常生活に役立ちそうだと概ね良好な評価をしていると思われる。学生コメントには全体的に好意的なものが多く、メンタルタフネス講座に対する興味や学びへの関心度が伺える内容となった。





●実践的スキルのブラッシュアップ [プロジェクトマネジメント体験]

学生自身が企画・立案・運営する「創造プロジェクト」を推進し、プロジェクトマネジメントを通じて学生自らが気付き・学ぶことが出来る場を提供します。また、プロジェクトを円滑に進めるためのプロジェクト管理システムを開発・運用します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

情報ビジネス学部では、プロジェクト実践において、学生の就業力育成のための一つの活動として、企業との協働プロジェクトを実施した。プロジェクトに参加し、活動を行うことにより、グループ内でのコミュニケーション能力を高め、役割分担などを行いながら主体的に行動できる能力の育成に努力した。また、プロジェクト活動の中で、協力企業の方々との打ち合わせや意見交換を実際に体験することにより、意見形成力、意見傾聴力、コミュニケーション力など社会人として必要とされる能力(社会人基礎力)についての認識を深めさせるとともにその養成を行った。

◆プロジェクト実施スケジュール

2011年2月	プロジェクト活動についての学生ガイダンス	2011年 8月	プロジェクト中間発表会
2011年4月	キックオフミーティング 1「豊橋の行政について」 キックオフミーティング 2「豊橋の産業について」	2011年12月	プロジェクト成果発表会
2011年5月	プロジェクトテーマ提出	2012年 1月	教員によるプロジェクト成果報告書の取りまとめ
		2012年 2月	教員による成果報告書に基づく反省会の実施

◆プロジェクトテーマ一覧

1. 外食産業におけるロジスティクス・システムの研究 (石田プロジェクト)
2. 福祉施設で紙芝居 (今井久プロジェクト)
3. ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動 (今井正プロジェクト)
4. 豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査 (見目プロジェクト)
5. 認定試験を受けるための学習環境構築と運営 (五味プロジェクト)
6. 会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る (中野一プロジェクト)
7. 社会的企業の実証研究 (中野聡プロジェクト)
8. 豊橋筆プロジェクト (花岡プロジェクト)
9. 豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト (三好プロジェクト)
10. 学食広報プロジェクト by 学食おうえん団 (三輪プロジェクト)
11. 東三河における繊維産業 (森田プロジェクト)
12. 炎の祭典支援プロジェクト (山口プロジェクト)
13. 東三河Bible (吉川・片岡プロジェクト)

◆活動成果および評価

プロジェクト活動では、コミュニケーションの実践的トレーニングを繰り返し行うとともに、事業推進に関する基礎的方法を体得できた。また、協働作業における進行概略理解とそのために必要な能力について考察できる機会となった。プロジェクト終了後の学生自己評価アンケートでのプロジェクト推進方法についての設問では、80%以上の学生が肯定意見であり、積極的に関与していたことが伺える。しかし、コミュニケーションスキルに関する設問では肯定評価が50%程度と小さく、コミュニケーション力が課題項目として認識されていることが現れていた。大学における講義では教員や友人と協働する機会が少なく、本プロジェクトはそのような機会を提供でき、学生が組織で活動するための社会人基礎力の養成に貢献したと評価できる。

◆今後への課題点

地域の企業・団体の協力を得て進めるプロジェクト活動は、社会人としての疑似的体験ができるという点では学生にとって大きな意味がある。しかし、受け入れ側としてみれば大きな負担となっていることも否めないため、適切なテーマ設定と学生指導のあり方について引き続き検討する必要がある。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、必修の「特別研究セミナー」のコマを使い、教員の指導のもとに学生自らが企画・立案・運営するプロジェクトを経験する場とし、プロジェクトの運営を通して学生が人間的に成熟することを期待した。

◆プロジェクト実施スケジュール

2011年4月中	プロジェクトの企画	2011年12月中	学生に対するアンケートの実施
2011年4月12日	キックオフ講演会 1「豊橋を知る一行政について」	2011年12月21日	プロジェクト発表会
2011年4月19日	キックオフ講演会 2「豊橋を知る一産業について」	2011年12月21日	プロジェクト成果報告書(学生)の提出
2011年4月26日	テーマ決定、プロジェクト実行計画書の提出	2012年 1月20日	プロジェクト成果報告書(教員)の提出
2011年7月31日	進捗状況の確認、プロジェクト中間報告書の提出	2012年 2月15日	プロジェクト活動の反省会

◆活動成果および評価

学生が書いた報告書やアンケート結果をみると
 ・プロジェクト活動を通して、自分の行動に対する自覚が高まった。
 ・企業人と交渉することで、社会人としてのコミュニケーション能力が高まった。
 ・協力する大切さがわかった。
 ・グループメンバーの気持ちがひとつになる経験をした。
 ・授業に対して、より高いもの(質)を求めるようになった。
 等、人間的な成長という点から見るべきものがあった。
 また、教員の立場からも
 ・学生達が自発的に動いてくれるようになった。
 ・プロジェクト活動を通じて、一人ひとりの学生をよりよく理解できた。
 ・プロジェクト活動はスキルアップにも役立った。
 ・自信を持って成果を発表する様子を見ていて、成長している様子が伺えた。
 ・成果が上がったという実感がある。
 等の感想が寄せられた。
 プロジェクト活動の中には新聞で取り上げられたものもあり、本学の取り組みを多くの方に知らせる事ができ、広報活動の面からもよかったとの声もあった。
 また、プロジェクト活動では携帯情報端末を活用し、ITリテラシーを体得させることを積極的に進めた。携帯情報端末の利用は学生にも好評で、ハンディな携帯情報端末として今まで以上に活用したい。

◆今後への課題点

今回のプロジェクト活動を通し、教員からは
 ・テーマ選定はほとんど教員が行っているのが実情であり、必修のゼミのコマで対応しているものの、学生によってモチベーションに大きなばらつきがある。
 ・テーマによっては土・日曜日を利用して活動する必要があり、通常の授業のコマを振り替えなければならず、時間的制約による活動範囲の限界がある。
 ・プロジェクト活動状況を教員同士が共有し、運営上のノウハウが水平展開できればよかった。
 ・プロジェクト活動は外部組織(協力企業・団体等)との密接な関連が要求されるが、学生に交渉させるのは難しい。
 等が課題点として提起され、今後の活動へ活かすこととなった。



●ユビキタスキャンパスの始動

学生一人ひとりに携帯情報端末を貸与するとともに学内のIT環境を整備し、学生の情報活用能力の向上を目指します。
また、携帯情報端末アプリケーションおよび、WEBサイト・データベースを開発・運用し、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタスキャンパスを実現します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

本グループ事業では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタス・キャンパスの実現を目指して、携帯情報端末の配布、学内のIT環境の整備、アプリケーション開発支援、および、『持続型職業人SOZOプロジェクト』に特化したWebサイト・データベースの構築を目的として活動を行った。

- ① 情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年生に携帯情報端末(iPad)を配布し、Web情報検索等で利用させることを通じて、ITリテラシーを習得・向上させる
- ② 携帯情報端末の利用を促進させるため、学内において、いつでもどこでも学生がインターネット等を利用できる環境を整える
- ③ 就業力育成に寄与する電子コンテンツやアプリケーション、また、情報提供の仕組み(Webサイトなど)を開発・構築・運用する
- ④ 携帯情報端末用プロジェクト管理アプリケーションの開発・配布について技術的支援を行い、『実践的スキルのブラッシュアップ』におけるプロジェクト活動での活用を補助する

◆活動成果

- ① 事前にiPadに各種設定を施したのち、平成23年3月末に学生に対してiPadを配布し、あわせて基本的な利用方法に関する説明会を実施した。
- ② iPadをより利用しやすくするため、学内ネットワークシステムにおける学生の利用状況などの調査を通じて、無線LAN環境の充実化方策を検討した。
- ③ 本事業に関する学生向けポータルサイトを開設し、各種マニュアル揭示等の情報発信活動を行った。また、就業力育成につながる大学独自のiPadアプリ開発について検討を行った。
- ④ プロジェクト管理アプリケーションについて、ポータルサイトを通じた学内向け配布環境を整備するとともに、アプリの不具合報告や改善要望等を集約し、開発業者とともに不具合修正・新規機能追加などの活動に取り組んだ。

◆評価方法と評価

二つの方法により、本グループ事業の成果を評価した。

- ① iPad貸与に対する利用状況アンケートの実施
- ② 学内無線LANシステムの利用実績の整理と集計

アンケート結果より

・週4日以上iPadを使用した学生は21名/48名(43.8%)となり、ほぼ日常的に使用した学生は4割超であった。
・『やや満足』『満足』と回答した学生は39名(81.3%)となり、8割以上の学生がiPadを使用する活動に満足感を得ていることが確認された。
この結果より、iPadの貸与を通じて学生がIT機器に触れる機会が増大し、かつ大部分の学生が満足したことが明らかとなり、一定の効果があったといえる。

利用実績(記録)の整理と集計より

・平成22年度の学内無線LANシステム利用は個人でノートパソコンを持つ学生に限られ、日あたり最大2~3ユーザ(全学)であった。
・平成23年度については、日あたり最大93ユーザ(うち情報ビジネス学部については49)となっており、前年度から大きく増加していた。
等の状況から、本事業のiPad貸与を通じて、多くの学生に無線LAN(ネットワーク利用)を経験させることができ、事業目的であるITリテラシー習得の一助になったものと評価できる。

◆今後の課題点

- ・支援体制の充実化やiPad利用機会を増やす仕掛けづくり等、iPadの利用頻度を高める方策を検討する。
- ・学生の基礎学力の向上のため、e-learningシステムの一層の活用を進める。
- ・学生のITスキル向上には、指導する側である教職員のIT活用スキルが不可欠であるため、学生とともに教職員に対する支援体制も強化する。
- ・『大学と学生をインタラクティブに結ぶ』仕組みを構築し、インタラクティブ性を重視したアプリケーション・システムの準備を検討する。

本グループ事業関連サイト

・ポータルサイト <http://project.sozo.ac.jp/>



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタスキャンパスの実現を目指し、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科と合同で、学内のIT環境を整備するとともに、アプリケーション支援や本事業に特化したWebサイト等の構築を行った。

また、学生個々に配布された携帯情報端末を活用し、プロジェクトを円滑に進めるための『プロジェクト管理アプリケーション』を有効利用し、学生間での情報交換を活発にするよう取り組んだ。

◆活動成果と評価

本グループにて事前にiPadの各種設定を行った後、平成23年3月末日に各学生へ配布するとともに、基本的な利用方法等の説明会を行った。また、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科とともに、就業力育成に繋がる本学独自のiPadアプリケーション開発についての検討を行った。

情報ビジネス学部と合同で行ったアンケートの回答結果から、週に2日~3日という学生も含めると半数強がiPadを利用している。短大の2年生であり、授業数が少ない学生も居ることを考え合わせると高頻度での利用がうかがえる。また利用場面において、プロジェクトでの利用率が低いことは、教員の活用方法にも問題があると考えられ、次年度に向けて検討が必要である。

各プロジェクトにおいて当初は活用されていたが、いつも顔を合わせているメンバーということもあり、ゼミによっては次第に利用状況が下がり、ファイル共有程度の利用だけになっていたことは否めない。しかしながら、客観的に進捗状況を把握するためにも、アプリの活用は必須であると考ええる。

当初の見込みと違い、就職活動で活用をされていたことは嬉しい誤算であったかもしれないが、その結果、就職に結びついたかどうかは集計していない。また、自宅での利用率に比べ、学外での利用率の低さは、iPadを学外で使用するための設定が短大生にとって少々ハードルが高かったことがうかがえる。その反面、IT機器に興味を持てたとの結果もあり、初年度としてはまずまずの結果ではないだろうか。

◆今後の課題点

当初、個人的に予定していたHand bookの活用が中途半端に終わってしまったため、次年度は医療秘書検定対策問題集などの構築を進めていきたい。

教員からはせっかくのアプリであるので、他のプロジェクトの状況が共有できると更に活用が進むのではないかと意見があった。

iPad自体は学生にも概ね好評であり、高校での進路相談会でも興味を持つ生徒がいた。学生たちが使いこなせるかという心配は杞憂であったので、活用方法を学生に考えさせることも踏まえ、更なる活用方法を検討したい。





●大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生との人的ネットワークを再構築し、社会活動の豊富な卒業生と在学生との交流を推進することで、学生の社会人を養成する事業を展開します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これまで輩出した卒業生とのパイプを活かし人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開することを目的として活動に取り組んだ。

学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、平成23年度豊橋創造大学同窓会総会の会場を利用し、教職員と卒業生の『卒業生業界別交流会』を行い、就労状況に対するアンケート・ヒアリング等の情報収集を行った。

◆実施行事と概要

「卒業生業界別交流会」

日時 平成23年9月24日(土) 18:50~20:00 (同窓会総会後)

会場 ホテルアークリッシュ豊橋

参加者 ●卒業生 60名 ●教職員 21名 ●JSSPスタッフ 5名

設置した業界別交流グループ一覧

・金融保険 ・製造業 ・卸小売 1 ・情報通信 1 ・医療理学
・建設業 ・サービス ・卸小売 2 ・情報通信 2 ・その他

内容 業界ごとに分かれ、勤務状況や後輩に期待すること等、教員を囲んで和やかな雰囲気での懇親会を行った。

大学ホームページに様子を掲載

・<http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/110924.php>

◆活動成果と評価

それぞれの交流会で業界・就職先の特徴・現状が把握でき、この内容は就職ガイダンスを通じて現役学生の就職指導に活かしていくことができるものとなった。

また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職励会等で、在学生の指導を行う有望なOB人材の発掘を行うことができた。

◆今後への課題点

卒業生業界別交流会は今回、同窓会総会終了後に行った。本来、同窓会総会の目的と本学の就業力育成支援事業の目的はそれぞれ異なっており、開催にあたって同窓会役員から不安の声が上がった。相手の立場を如何に理解して、調整、融合、協力し、相乗効果を上げていくかが大きな課題であるが、開催方法について今後検討を続けることになった。

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではなく、卒業後の早期離職を防ぐことも重要な目的である。多くの卒業生を地元へ輩出してきた強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進めたい。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、豊橋創造大学短期大学部同窓会第27回総会終了後に、キャリアプランニング科在学生と短期大学部卒業生を対象とした『在学生&卒業生交流会』を開催した。

これまで、在学生と卒業生が直接話をする機会はほとんどなく、卒業生から披露された就職活動の体験談や職場での苦労話は、在学生にとって大変貴重なものとなった。

◆実施行事と概要

「在学生&卒業生交流会」

日時 平成23年10月23日(日) 13:00~

会場 豊橋創造大学 A32教室

参加者 ●在学生 11名 ●卒業生 12名

内容 ①在学生によるJSSPプロジェクトの中間発表
細谷ゼミ・千賀&中島ゼミ
朝倉ゼミ・村松ゼミ・抄録・ポスター発表のみ
②卒業生から在学生へのメッセージ

大学ホームページに様子を掲載

・<http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/111023.php>

◆活動成果と評価

在学生&卒業生交流会は、在学生と卒業生の活発な意見交換ができたことにより、在学生には大きな刺激となった。特に就職活動で苦労した体験談は学生だけでなく、教職員にとっても就職ガイダンス等での就職指導に活かしていくことが可能なものが多く大変有意義であった。

また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職励会等で、在学生の指導を行う有望なOB人材の発掘を行うことができた。

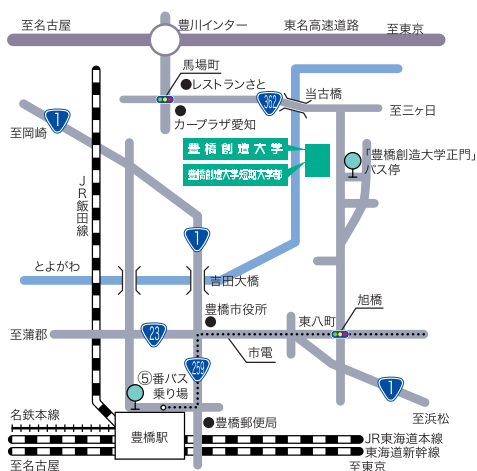
◆今後への課題点

在学生&卒業生交流会は、実施したこと自体は有意義であったと言える。参加人数が少なかったことは今後の課題であるが、今回のように小規模での実施の方が活発な意見交換がなされると考えられる。

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではない。これまで多くの卒業生を地元へ輩出してきた本学の強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進め、卒業後の早期離職を防ぐことに繋げていきたい。



A C C E S S



[交通案内]

- 豊鉄バス 豊橋駅⑤番乗り場から乗車(所要時間15分)
「豊橋創造大学正門」下車、徒歩1分
(土・休日のみ「創造大東」下車、徒歩1分)
- 豊川インターチェンジより車で約15分



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 短期大学部 キャリアプランニング科